

# 平成29年度 《学校経営計画》

名張市立北中学校

校長 寺嶋 哲司

## 1 学校教育目標

夢をもち、心豊かで、たくましい生徒の育成

—感動・感謝・そして成長—

## 2 めざす学校像、幼児・児童・生徒像、教職員像、保護者・地域像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人ひとりを大切にする学校</li> <li>安全で安心して学べる学校</li> <li>活力あふれる学校</li> <li>地域に開かれた信頼ある学校</li> </ul>
○生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>目標をもち、自ら学ぶ生徒</li> <li>自ら考え、自ら行動する生徒</li> <li>人とつながり、学び合う生徒</li> <li>心身ともに健康な生徒</li> </ul>
○教職員像	<ul style="list-style-type: none"> <li>愛情をもち、生徒とともに実践する教師</li> <li>創意工夫をし、生徒の確かな学力をはぐくむ教師</li> <li>生徒・保護者・地域に信頼される教師</li> </ul>
○保護者・地域像	<ul style="list-style-type: none"> <li>つながり合い、学び合う保護者</li> <li>子どもを見守り育てる地域</li> </ul>

## 3 学校の現状

生徒の学校生活の様子は全体的には落ち着きがあり、学習・部活動をはじめとする諸活動にも熱心に取り組んでいる。H28年度の生徒アンケート結果は、「学校生活が楽しい」と感じている生徒が95.2%であった。また、学校生活の大半を占める授業については「授業に主体的に取り組んでいる」と回答した生徒は93.2%を超え、「ほとんど理解できている」と回答した生徒は約90%であった。保護者も生徒も「わかりやすい授業」を一番に求めており、より一層の授業改善に力を入れ、生徒の主体的・積極的に学ぶ力の醸成が求められる。また、「あなたは自分の将来に夢や希望をもって学校生活を送っていますか」という項では、83.1%であり、H28年度よりも上昇したが、より一層の取組の推進が求められる。一方で、不登校等、心悩みを持った生徒、様々な課題のある生徒も増える傾向にあり、未然防止、早期発見・対応が重要である。自己肯定感・自己有用感の弱さも見られ、自尊感情の醸成と自らの目標を実現するためのキャリア教育の推進が一層必要である。さらには、生徒自らが積極的に進めていく自治活動を活発化させ、地域との連携を図りながら学校教育を進めていく必要がある。

## 本年度の改善方策

学び合い学習を中心に授業の工夫・改善と教育相談の充実に取り組む。また、学校行事・学級活動等の活性化を通して、豊かな人間関係と居場所づくりをすすめる。最終的には自分たちの活動が「感動」を生み、周りの人に「感謝」し、そして「自己実現」を図る取り組みを進めていきたい。また、9年間を見通した教育という視点から小中連携を図り、魅力ある学校づくりをめざし、さらに発展させたい。

その基盤となるのは、活力のある教職員集団であり、そのためには、過重労働対策を推進し、教職員の健康管理に配慮する。

以上を踏まえながら、「夢・未来」をはぐくむことをめざして、以下の3点を重点に取組を進めたい。

1. わかる授業づくりと学習意欲の向上（学び合い学習の推進、学習規律の定着、一人ひとりが活躍する場の設定、家庭学習習慣の定着、補充学習の充実）
2. 豊かな人間関係と居場所づくり（教育活動全体を通じた、成就感・満足感・自己肯定感・自己有用感を高める創意工夫、人権教育・道徳教育の充実、生徒の自治活動の推進）
3. 生き方を学ぶ教育活動の充実（進路相談・教育相談の充実、職場体験学習、地域と連携した体験学習、小中連携）

## 4 重点的な取組事項

番号	内容	実施期間				
		27	28	29	30	31
1	わかる授業づくりと学習意欲の向上	○	○	○	○	○
2	豊かな人間関係と居場所づくり	○	○	○	○	○
3	生き方を学ぶ教育活動の充実	○	○	○	○	○

## 5 平成29年度の重点目標

重点的な取組事項－1 わかる授業づくりと学習意欲の向上	
A 今年度の成果目標	
「授業内容がほとんど理解できている」「授業に主体的に取り組んでいる」の項目を <u>90%以上</u> にする。	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	「学び合い学習」を中心とした授業研究を推進し、研究授業、反省、改善の取組を継続する。(年間2回の全体研究授業、一人1回の研究授業の実施)
②	学習規律の徹底と、学びに参加した成就感・満足感を感じることによって、子どもの主体的な学習姿勢(一人ひとりが活躍できる場の設定、発問の工夫など)を培う。
③	家庭学習習慣の定着に向け、保護者への啓発及び具体的な取組をすすめるとともに、 <u>長期休業中や諸活動停止期間を活用して、補充学習を充実する。</u>

重点的な取組事項－2 豊かな人間関係と居場所づくり	
A 今年度の成果目標	
「あなたは、学校生活が楽しいですか」の項目を <u>90%以上</u> にする。	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	「肯定的な振り返りによって生徒相互が認め合う」「教師が褒める、励ます、認める」等の場面設定を意識的に行い、生徒の成就感・満足感を高める。
②	Q－U調査や教育相談に、より有効に取り組むとともに、子どもの様子についての職員間の情報共有を密にし、子ども同士がつながる声かけの工夫をする。
③	生徒の自治活動の活発化を図り、 <u>教師が率先した姿を生徒に見せながら、生徒会の「5つの目標」の達成意識を5項目とも95%以上にするための取組を行う。</u>

重点的な取組事項－3 生き方を学ぶ教育活動の充実	
A 今年度の成果目標	
「あなたは、自分の将来に夢や希望を持って学校生活を送っていますか」の項目を <u>85%以上</u> にする。	
B 目標実現に向けた取組	
具体的な方策	
①	地域と連携したボランティア活動等の工夫をすることにより、地域や社会に参画する意識を高める。
②	面接や面談の機会を工夫し、将来、自己実現が可能となるように、自己表現力を伸ばす取組をすすめる。
③	職場体験学習及び職業や働くことについての調べや聞き取りの学習等、人と職業との出会いを工夫する。
④	小中連携の中で、望ましい子どもの姿とその実現のための、 <u>小学生が中学生の様子を知る機会などを設けるなどして、取組の共有化・共通化を図る。</u>